

## 2023年度 独創的研究助成費 実績報告書

2024年 3月26日

報告者	学科名	看護学科	職名	教授	氏名	関根紳太郎
研究課題	地方公立大学におけるグローバル教育に関する実践的研究					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	関根紳太郎	看護学科・教授	社会言語学	研究責任者	
研究実績の概要	<p>●令和3年度の文部科学省高等教育局では、「社会の持続的な発展をけん引するための多様な力の育成」として「グローバル人材育成のための大学の国際化と学生の双方向交流の推進」をすすめています。実際、「大学教育のグローバル展開力の強化」に43億円（前年度45億円）の予算が計上されています。このように、国家レベルでの大学の国際化及びグローバル人材の育成に対する支援を積極的に活用するために、本学のような地方公立大学の国際化とその高度化を推進し、地域に求められる人材育成機関としての機能を強化するグローバル教育プログラムを実践的に探究したいと思います。</p> <p>●地域貢献とグローバル教育 地方公立大学としての本学の教育研究の理念、すなわち使命として「人間・社会・自然の関係性」を重視する実学を創造し、地域に貢献することがあります。</p> <p>●本学では、3ポリシー（DP・CP・AP）において、グローバル人材の育成を掲げています。地域貢献とグローバル教育が地方公立大学としての重要な要素と言えます。</p> <p>●グローバル教育の方向性（国際性の涵養）に、長期・短期研修等の海外派遣を主とするアウトバウンド型と、留学生や研修生、訪日客受け入れを中心とするインバウンド型が挙げられると思います。</p> <p>●アウトバウンド型グローバル教育では、訪問先の外国の歴史、文化、価値観等を学び、いわばアウェーでの立ち振る舞いが主な学びの対象となります。</p> <p>●インバウンド型グローバル教育では、受け入れ側（日本）の歴史、文化、価値観等をいかに訪日客に伝えるか、いわばホームでの立ち振る舞いが主な学びの対象となります。</p> <p>●グローバルな視座から地域（＝ホーム/ローカル）を学ぶことは、インバウンド型グローバル教育に資するものと言えます。</p> <p>●インバウンド型グローバル教育の3要素は、以下に大別できます。</p> <p>(A) 基礎スキル（英語学習） (B) コンテンツ（内容学習） (C) デリバリー（グローバルコミュニケーションスキル）</p> <p>●研究フレームワークとしては、アクションリサーチ型アウトリーチ研究を取り入れ、以下の3つのフェーズから展開しました。なお、今年度は（1）および（2）のフェーズを実践し、（3）は次年度の課題としました。</p> <p>（1）Explore（探す・見つける） 大学生目線で岡山県内の（隠れた）見どころを調査・選定</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>(2) Connect (伝える・繋がる) 地域の魅力あふれる訪問先やワークショップの様様を SNS で英語で発信</p> <p>(3) Cultivate (育む・つむぐ) 「地域の魅力」を言語化・可視化するために、英文観光マップやグッズを制作し、これを県内外およびグローバルに展開</p> <p>●本研究では、美咲町「紅そば亭」でのそば打ちワークショップ、畠山製菓での「せんべい焼き」、寒風陶芸会館での「色絵付け」をそれぞれ英語で捉え、発信することで、インバウンド対応時の準備研究としての成果を得ることができました。具体的には、研究フェーズ(1)と(2)を実践することで、インバウンド型グローバル教育の要素(A)および(B)が一定程度進展したと評価できるでしょう。</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>【本研究の取り組み内容を含むInstagramサイト】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>@OKAYAMA_OUTREACH</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>MISAKI_OUTREACH_OPU</p> </div> </div>